



現役の活動状況

第68回高校春季総合体育大会兼 第65回インターハイ予選

2013年4~6月

男子

顧問・堀川 美子 (27期生)

[北ブロック大会・リーグ戦] 参加31チーム

- 寝屋川 12-20 枚方
- 寝屋川 17-14 咲くやこの花 (リーグ戦敗退)

67期生は、昨年の秋季大会・新人戦で、メンタル面に課題を残し、長い冬のトレーニングに臨みました。

春休みには、兵庫県や京都府の上位のチーム、大阪の中央大会に出場したチームとも、互角に戦い、速攻中心によく走り、遅攻でもパス回しからのシュートに、惚れ惚れすることもありました。

ただ、不安材料も、ありました。

苦手意識を持っているチームには、苦戦を強いられるということです。

また、自分たちで声をかけ合い、ムードを作ることができないことです。

特に、最初のシュートはずした時は、なかなか波に乗れません。メンタル面での課題を、残したまま、新学年を迎えました。

春季大会の抽選で、キャプテンが、枚方高校を引きました。

苦手意識のあるチームなので、私としては試合までの1週間、いろいろ対抗策を考えて、練習したつもりなのですが、部員たちは練習中も、何か気持ちの点で、引き締まったものを、感じませんでした。

案の定、公式戦のアップの時から、寝屋川に元気がなく、相手の方が声も出て、気迫があり、押されている感じがしました。

悪いことに、右45度のフローターが、前日から熱中症で体調を崩し、試合に出れるかどうかという状態で、他の部員もその不安と緊張で、押しつぶされそうなムードでした。

前半10分位までは、枚方高校も緊張していたのでしょうか、何とか対等に試合が行われていたと思いますが、オフェンスでは、相手の方が強いあたりで、思うように攻められず、ディフェンスでは、こちらが消極的でカットも狙わず、相手の勢いに負けていました。

3年生にはいつも、「成功したら、儲けもの！、失敗したり、思い通りのことができないことのほうが、当たり前！！、その時に、どんな対応をしたらいいのかを、考えろ！」と、言ってきました。

しかし、深く考えられていなかったようで、寝屋川は今回のように、追い込まれた時に、チームとして何も対応することができず、負けてしまいました。

続く、対咲くやこの花高校戦でも、練習試合では、楽勝だった相手なのに、接戦になってしまいました。

受験勉強にも、同じことが言えると思うので、もう一度、今の自分の力を、客観的に判断し、何ができていないのか？、それをどうしたらいいのか？、きちんと答えをみつけて、取り組んでほしいと、思っています。

3年生が引退し、2年11名、1年15名、マネージャー5名(2年2名・1年3名)で、新チームでの練習を、始めました。

技術的には、まだまだ未熟ですが、こちらが期待する反応が返ってきたりして、なかなか面白いチームになりそうです。



女子

顧問・赤星 明

[北ブロック大会・リーグ戦] 参加31チーム

北ブロック大会新人戦2位シードのため、試合なし

[北ブロック大会・トーナメント] 参加8チーム

準々決勝 ○ 寝屋川 11 - 7 柴島

準決勝 ● 寝屋川 11 - 13 北千里

3位決定戦 ○ 寝屋川 10 - 9 茨木

[大阪府・中央大会] 参加12チーム

1回戦 ● 寝屋川 16 - 16 三国丘

延長 3 - 3

7mコンテスト 0 - 3

春休みに、多くの練習試合を組み、チームも順調に、強くなってきました。

しかし、尼崎市の体育館での兵庫県のチームとの練習試合で、キャプテンが足の膝を負傷しました。

春の地区大会は、無理かなと思っていました。

中央大会に向けて、北ブロック3位決定戦では、デフェンスだけで、少し出場させました。

苦戦続きでしたが、何とか北ブロック3位で、中央大会に出場しました。

相手は南ブロック2位の、三国丘高校でした。

練習試合で勝っていたので、生徒も私も勝つ自信がありました。しかし、女子の試合はやってみないとわからないと、つくづく思いました。

ラスト45秒まで、寝屋川が1点リードでした。

マイボールでの攻撃の時に、相手に押されて、パスを出したボールをカットされ、同点に追いつかれ(私は、押されている！と、審判にアピールしたのですが)、延長戦になりました。

それでも決着がつかず、7mコンテストになりました。

私は1人の生徒に、キーパーが大きいので、股下を狙ってもいいよと、いいましたが、自信がなく、結局四方の隅を狙い、止められてしまいました。

生徒たちは、「先生を近畿大会に連れていけなくて、スミマセン！」と、泣いていました。

私も、本当に残念でした。

涙が出ましたが、よくここまで、たくましく成長してくれたとの思いで、いっぱいでした。

前号で報告して書いたとおり、このチームは155・156cmのフローターで、エースという選手は、いませんでした。

全員が、コツコツと自分の役目をはたして、まとまりのある、元気で、明るいチームでした。

入部した当時は、この学年のチームでは、中央大会は無理かも・・・と、少し思った自分が、恥ずかしく感じました。

生徒は30分ぐらい、泣いていました。

この後、OBの平井さん(13期)が、近畿大会出場を願ってと、スイーツパーラーの食べ放題を、企画してくださっていました。

予約をしていたので、42名の生徒と、加堂さん(14期)と私に加え、45名、天王寺駅の11階で盛り上がりました。

本当に、助かりました。

1・2年生は、自分達は必ず近畿大会に出場するとの思いが、伝わってきました。

3年生は、夏までやろうかと考える、生徒もいました。

気持ちの切り替えで、本当によかったです。

今年の1年生は、15名入部しました。

そのうち、中学での球技経験者(もちろん、ハンドはいません)が、7名います。

この学年が、私の最後の年になると思います。

後、2年半、がんばりたいと思っています。

応援、よろしくお願いします。





[現役の状況]

学年	男子	マネージャー	女子	マネージャー	合計
3年	9	2	9	2	22
2年	11	2	12	3	28
1年	15	3	15	1	34
合計	35	7	36	6	84



2014年

正月ハンドボールの報告

24期 小合 省三

今年も1月11日(土)午後3時から、寝屋川高校グラウンドで68名の現役、OB・OG参加のもと、正月ハンドボールが行われました。

午前中は、寒かったのですが、昼からは暖かくなり、OB・OG対現役の親睦試合が展開されました。

残念なことに、3年生は、次の日がセンター試験のため、参加できませんでした。

第2部は、北水会館3階で、堀川先生・赤星先生も出席くださり、豚汁・ぜんざいを食べながら、恒例のビンゴゲームを行いました。

景品をもらう人から一言ずつ、メッセージをいただき、とても楽しい懇談会となりました。

第3部は、午後6時からOB・OGだけで、がんこ寿司に行き、20代の方は、1,000円で、飲み・食べ放題を行い、非常に喜んでいただけました。

これからも、楽しい催しを企画いたしますので、是非とも若い方々の多くの参加を、お願いいたします。



2013年度・66期生

OB・OG会入会式

21期 菊地 和代

平成25年度ハンドボール部の卒業生、女子15名・男子6名のOB・OG会入会式を、卒業式前日の2月28日(金)、本校において、行いました。

寺西会長より、ハンドボール部OB・OG会の活動目的・会則が説明された後、「認定書」「記念品」を授与し、男女夫々の話し合いで、今後のOB・OG会の活動協力者として、各代表3名を役員として選出してもらい、終了しました。

在学中は、厳しい暑さ・寒さの中、共に励まし合ってきた、現役時代を知る同期生・仲間であるからこそ、後に続く後輩の為にも、母校ハンドボール部の力に成れることがあるはずです。

また、今後OB・OG会の活動を通じて、親睦をも、深めて行きましょう。

21名の新しいOB・OG会メンバーの加入を歓迎し、卒業後も様々なOB・OG会の活動に積極的に参加され、活躍されることを、大いに期待しています。

日時：平成25年8月17日(土)
 雨天：親睦試合、中止、懇親会のみ
 総会：15:00～ セミナーハウス
 親睦試合：16:30～ ハンドボールコート
 懇親会：18:15～19:15 ハンドボールコート
 2次会：19:30～ がんこ寿司寝屋川店
 会費：500円

会計よりの、御礼とお願い

23期 井上 武久

会員の皆様には、平素より本会の運営に、ご理解とご協力いただき、又次掲の、平成25年度年(2013.7～2014.6月)OB・OG会会費納入者の方には、御礼申し上げます。

今後とも、会費の趣旨をご理解いただき、本会の発展、並びに、円滑な運営を行うため、平成26年度の年会費の払い込みにつきましても、会員各位のご協力を、よろしくお願い申し上げます。



払い込みには、同封の郵便振替払込書、又は、銀行振込みでお願いいたします。

・郵便局利用

口座番号 01100-6-73829

加入者名 寝屋川クラブ

(注)金額欄には「¥」を、書かないで下さい。

この振込用紙には通信欄もありますので、会の運営に対しての、ご意見や近況報告など、ご自由にご利用下さい。

・銀行振込利用

振込銀行 住友銀行 川西支店

口座番号 普通預金 1011226

口座名義 寝屋川クラブ 井上武久 (イウエ ヌキサ)

※年会費：社会人 5,000円

学生 免除

(正月、盆・サマーハンドへの参加を、優先する為の、運用上の特別扱いとします。)

2014年 総会・盆サマーハンドボールのご案内

現役男女が、元気です

OB・OGの皆さんの、多数の参加を、お待ちしております

今年度の第22回総会、及び、盆サマーハンドボールを、現役の秋季大会(8月10～15日)、学校の行事の関係もあり、少し遅くなりますが、下記日程で行いますので、お誘いあわせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

現役とOB・OGの親睦練習試合、恒例のビンゴゲーム・飲み物・軽食・スナック等を用意します。

現役男女、部員数も多く、元気です

近年OB・OGの参加に、やや寂しいものがありますが、現役への応援・支援の意もこめ、まだ体の動く方々の、より多くの皆様のご参加を、お待ちしております。

又、2次会への参加のみでも、結構です。

厚い夏の暑気払いに1杯、やりましょう。

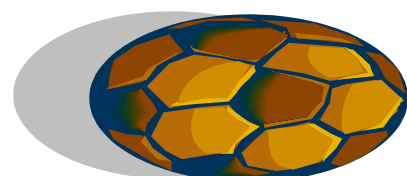




平成25年度(2013.7～2014.6月)会費納入者

2014.6.30 現在

- 3期 大槻明子 睦月欣子 村田芳子 森広洋子 梅垣修三
中嶋直彦
- 5期 松本由紀子 中東義治 樋上重夫
- 6期 望月滋乃
- 7期 金馬桂子
- 9期 大宮淑子 長澤邦子
- 12期 尾亀敬子 小谷吏佐子 中澤三津子
- 13期 土井利勝 平井謙二
- 16期 木野実 新堂達夫 多賀谷博康
- 17期 中田順子 深水汎代
- 18期 木村圭子 谷村千津子 津熊美智子 木村慶次
- 19期 平井晴美 竹守雅裕 吉田裕紀
- 20期 寺西啓三
- 21期 梅垣三七子 菊池和代 中西量子 今堀太逸 内田一男
松尾信一郎
- 22期 小森園多恵子 古本まみ 川原誠
- 23期 井上武久 葛木啓之 杉本明夫
- 24期 小合省三
- 25期 竹内貴洋子
- 26期 地原繁信
- 27期 渡部安晴
- 29期 甫田裕佳理 望月光治
- 30期 野際登美子
- 31期 西河英明
- 33期 久木久美子
- 34期 安田朋代
- 41期 安田郁
- 43期 小林恭子
- 47期 尾張京子
- 59期 岩井安寿香 北崎千咲子 古賀景子 泊智佳子



【追悼】 7期 桑原 芳子先生を偲んで

15期 北村 怜子

昨年12月の、寝屋川クラブ会報で、桑原先生の訃報(7期、2013年7月30日逝去)に接し、驚きました。

高校・大学の先輩で、私が卒業してからは、ネヤガワクラブ・大阪代表一般女子国体出場・教職員大会等、数々の試合で一緒に過ごして戴き、思い出多い先輩でした。

筆不精で、投稿することを躊躇しましたが、生真面目を絵に画いたような、こんな先生が居られたということ、後輩の人達に、少しでも知ってもらいたいという思いがあり、思い切って書いてみました。

桑原先生の高校時代は、寝屋川高校ハンドボール部の黄金期で、全国で数々のタイトルを獲得されていた時の選手で、肩が強く、ステップシュートが得意だったように、聞いています。

まず全体像ですが、髪は短髪、高校→大学→教員と同じ髪型で、社会人になられてからも、お化粧されていた記憶は、ありません。

服装は、いつもパンツスーツで、色も紺のイメージが強く、色・柄物を着ておられるのを見たことは、なかったように思います。

(昭和初期～中期の教師像は、男性は背広、女性はスーツというのが、定番でした。)

大学を卒業されてからは、布施女子高校(現、東大阪高校)の体育教師として赴任され、その後、プール学院大学で、定年まで勤められました。

いつも毅然とし、夏の暑い日差しの中、帽子も被らず、厳しく指導されていた姿が、懐かしいです。

私達の高校時代は、よく布施女と練習試合をしたのですが、中出先生(3代目顧問)譲りで、同じ事を繰り返す指導は、思えば自身、自然に身についたものだと思っていましたが、このしつこい程の繰り返しは、基本技術を作り上げていたのだと、思います。

常に謙虚で、周りに影響されず、自分の生き方に、筋の通った信念を持っておられた姿勢が、少し近寄り難く、少し変わった人という、イメージがあったかもしれません。

私も、遠征先でよくふざけて、叱られた事もありますが、厳しさの中に、はにかみながら、笑って居られる優しい目差しが、大好きでした。

そんな姿勢を貫くには、先生自身、悩まれ・苦しまれた事も、多かったと思います。

立派な先生でした。

世の中は、目まぐるしく進化し、私達世代は、ついてゆくの、必死の状態です。

文字を書かなくなり、所用も、電話やメールで済ませる、時代です。

字も上手でなくても、その人の心の温みがあり、会えば、その人のぬくもりが、伝わってきます。

315会(3～15期、女子の交流会)に参加すると、そのぬくもりを、すごく感じるのです。

そんな、素敵な、心のぬくもりを持った人が、又一人、減ったのが、私にとって、残念で、寂しく思いながら、桑原先生のご冥福をお祈りし、うまく書けませんでした、ペンを置きます。

「第9回ウエルネス・ハンドボール・フェスタ」を終えて

16期 新堂 達夫 (2013.12.18受)

2013年11月4日(祝)に、第9回ウエルネス・ハンドボール・フェスタが、金岡公園体育館にて実施されました。

大阪・兵庫・奈良から30チーム(12クラブ)が集い、大盛況のうちに終えることができました。

2005年・第1回大会の参加は、12チーム(5クラブ)でしたから、毎年着実に発展し、今日の状況に成長していることが分かります。

今回の特徴は、

- ①選手・監督・コーチの方々以外に、各チームの保護者たちの参加が急増し、会場内に応援の熱気が溢れました。
- ②この大会は、NPO法人ウエルネス啓発センターの主催で、大阪ハンドボール協会・大阪市ハンドボール連盟の後援を得て、毎年実施しています。
そして、ウエルネスの会員が中心となって企画・準備・運営していますが、会員以外に20名近くの方々が、運営に協力してくださいました。
- ③私は、第4回大会から第8回大会まで、大会委員長を務めさせていただきましたが、今回から、寝屋川高校ハンドボール部顧問・監督の赤星先生に、大会委員長の役割をバトンタッチさせていただきました。
- ④この数年間、13期生・平井謙二さんが必ず会場まで足を運ばれ、私達を物心両面で激励して下さっています。



昨年、舞洲アリーナで実施した第8回大会では、私と同期生の木野君が、開会式で選手たちに激励の挨拶をしてくださいました。

その他、OB会員としては、今年も松尾信一郎君(21期)と、谷和哉君(44期)がスタッフの一員として加わり、大切な役割を果たしてくださいました。

因みに、寝屋川高校ハンドボール部初代OB・OG会会長であり、ウエルネス啓発センターの理事長であった、赤鹿正剛さん(3期)の後を引き継ぎ、今年度から、私が理事長を務めさせていただきます。

14期生の加堂政則さんが、専務理事(兼事務局長)として頑張ってくださいていることや、寝屋川高校ハンド部OB・OGの多くの方々が理事として活躍してくれています。

そんな状況ですから、私のようなものでも、理事長を務めることができるのかな、と感じている、今日この頃です。

なお、「ウエルネ・スハンドボール・フェスタ」には、故・中出先生や、故・望月先生も積極的に、ご協力・ご支援をしていただいていた。

中出先生は、第1回大会からご逝去されるまで、大会顧問を引き受けてくださいました。

望月先生は、(赤鹿理事長の前任者として)NPO法人ウエルネス啓発センターの理事長、及び、ハンドボールフェスタ大会会長として、いろいろとご指導・アドバイスをしてくださいました。

ハンドボールフェスタの今日の発展に対して、お二人は天国で「教え子のお前たち、よく頑張っているから、嬉しいヨ!」と、キッ見守っていてくださることでしょう。

連絡先：新堂 達夫(16期生)
メールアドレス：dtscn584@ybb.ne.jp
携帯電話：090-8365-1833

会員だより

3期 中嶋 直彦 (2013.12.21 受)

今度の寺西会長御就任、まことにお目出度とうございます。

どうぞ、御健康に留意されて、870数名の御代表として、御活躍されますよう、心から御祈り、申し上げます

52期 内垣 真由美(旧姓、松田) (2014.1.9 受)

いつも楽しみに、読ませて頂いております。

現役の方も、OB・OGの方も、ご活躍をお祈りしております。

35期 泰間 伸明 (2014.1.8 受)

OB・OGの皆様、年2回の会合にも参加できず、申し訳ございません。

現在の現役諸君の頑張りも、OB・OG会の諸先輩方のご支援あってこそと思います。

小職も何らかの形で、また応援させていただける時が来ることを、楽しみにしております。

この会が、これからも永遠に存続することを、切に願っております。

小職、2007年4月～2010年9月末まで、パナソニック電工孫会社のPanasonic電工スチール(タイ)株式会社に勤務後、2010年10月1日付にて、一旦、大阪に帰任致しましたが、2012年4月から、パナソニック電工が買収した、韓国の中小企業である、新東亜電機(現、パナソニックES新東亜株式会社)のソウル支社にて、営業企画部長として勤務しております。

今年のソウルは、昨年と比べれば随分暖かいです、昨日から寒くなってきました。

今朝のソウルの最低気温は、マイナス10度でした。

大阪も、まだまだ寒いとは思いますが、体調にはくれぐれも気を付け、ご自愛下さいませ。

韓国は、日本とよく似た面も沢山ありますが、何よりもスピード、バイタリティに関しては、我々も学ぶべき点が多くあるかと思えます。

日本の会社は、慎重で、確実なのは、良い点ではありますが、常に市場のニーズを汲み取り、いち早く商品化するのが、この国の長所で、日本は、まだその点では、追いついていないのが、現状ではないでしょうか。(早いのはいいのですが、新商品発売後、品質でトラブルが多々ありますが……)

サムソンも20数年前までは、パナソニックの足元にも及ばない企業でしたが、今は立場が逆転、我々が学ぶべき企業へと、躍進しました。

今、その現実を、毎日肌で感じながら、生活しております。

日韓関係は、色々としじれることが多いですが、お互いが理解、協力しあえば、未来は明るいと思えます。(100年以上、かかるかもしれませんね)

韓国は、アジアではハンドボール強国で、日本も全然勝てない状況ですが、寝屋川高校ハンド部で頑張っている後輩諸君が、将来、日本を代表する選手となり、強敵韓国に快勝できる日がくることを、楽しみにしております。

折角、韓国にいたので、韓国の高校生ハンドボール部と、寝屋川高校ハンドボール部の、交流試合ができればいいなあと、いつも思っておりますが、何分、コネがないもので……。

寝屋高ハンドボール部のOB・OG会は、毎年楽しみにしており、高校卒業後20年以上、毎回参加させていただいておりましたが、なにぶん遠くてもう7年間も参加ができず、少し寂しい気持ちです。

日本に一時帰国した時に、寝屋川クラブ会報を読み、懐かしい思いとともに、現役諸君の活躍ぶりを知り、自分たちの後輩が、我が伝統を受け継いでくれているんだと、非常に勇気づけられています。

特に女子部は、公立高校にも関わらず、大阪でも屈指の強豪となっているようで、本当に驚いております。

自分が、高校現役でやっていた時、女子部は、同級生ゼロ、後輩数人で、何とか試合ができるような状態でしたので、よくもまあ、ここまで復活できたなあと、後輩諸君には、頭の下がる思いです。

男子部も、頑張っている姿は、ひしひしと伝わりますが、もうひと息!!

中央大会と言わず、全国大会を目指して頑張ってください。

スポーツは技術、体力も勿論ですが、メンタルが、非常に重要です。

「これだけ練習したのだから、絶対に負けない」という、強い気持ちと自信をもって、試合に臨めば、勝利の女神は、微笑むはずですよ。

小職も振り返ると、「高校の時、もっと高い目標をもって頑張っていたら、更に上を目指せたのでは」と、考えると、今更ですが、とても悔しい気持ちで、一杯です。

人生は、やり直しがききませんので、現役の皆さんは、本当に全てを忘れてハンドボールに全力で取り組み、後悔のない高校生活を、送ってください。

PS：今、韓国で、現地の硬式野球チームに所属しているのですが、肩は痛めるわ、肉離れはするわで、若かった頃が懐かしいです。昔のような、プレーができると思っているのは、気持ちだけで、全然、体がついていっていません……。





会員リレー伝言板

20期 井川 隆三

同期の寺西君が、新会長に就任されたことを、クラブ会報で知った以降、何か、胸騒ぎを感じていましたが、案の定、OB・OG会幹事の谷村さんから、原稿依頼が舞い込んできました。

2年先輩の谷村さん（旧姓：中野）は、実は現役当時、僕達1年生にとっては、憧れの人、女子ハンドのマドンナだったのです。

今から49年前の昭和40年4月、寝屋川高校入学式当日、松の木繁る、表玄関広場で、各クラブの勧誘活動が、繰り広げられていました。

その中で、特に印象的だったのが、「ハンドボールは強いし、カッコええで」「ようもてるで、スターになれるで」でした。

当時の3年生（18期）の、流川さんと、松田さんでした。

少し早口の、流川さん。

くりんと、大きなまつ毛の松田さん。

2人とも引き締まった容姿で、とても爽やかな先輩に見え、僕もハンド部に入ったら、こんなカッコいい（当時の人気歌手）舟木一夫みたいな、「高校3年生」になれるのかなと、変な勘違いをして、胸をわくわくさせたものでした。

しかし、僕は中学でバレーボールをしていたので、クラブはバレー部と、思っていたこともあり、ハンド部への入部を決めかねていた、1学期中頃のある朝礼の日、全校生徒の前で、ハンドボール部の近畿大会出場の出発式が、行われました。

応援歌、「河内の原に疾風（かぜ）起こり～今決戦の時至り～」が、校庭に響き渡る。

なんと勇ましく、なんとカッコいいことか。

鳥肌が立つ、感動を覚えました。

入学時に、勧誘のあったあの言葉、「ハンドは、カッコええで」「もてるで！」は、本物やったんやと実感し、胸躍る思いで、入部を決心してしまいました。

強さとカッコよさを求めて、入部したものの、ハンドボールは、初めて挑むスポーツだったので、すべてが戸惑いだけでした。

入部初日、あの流川さんが、「さあいくぞ！、エイ！、ヤー！、エイ！、ヤー！」と掛け声を出し、みんなが走り出す。

「ヤ！、ギョイ！、ギョイ！、ヤ！」と、変な独特の掛け声の、松田さん。

個性的な2人が、先頭に立って引っ張り、アップが始まる。

校庭の注目が、ハンドボール部の練習に、集まる。

近畿大会に出場し、インターハイ出場の有効候補校だけあって、迫力が違う。

木村キャプテンの指示で、練習がテキパキと、進行していく。

ランパス、ダッシュ・ターン、シュート、速攻、ドリブル、2対2…等々。

ほとんどが、走りばかりで、息が上がる。

隣りの大柄の先輩に、「しんどくないですか」と、聞くと、「あほか！、しんどいにきまっとるわ」と、怒鳴られた。

汗だくで、仁王の形相した、中村務さんでした。

「なんと、しんどいクラブに、入ったもんやな」、というのが、実感でした。

そして、それが辛くて・苦しくも、掛け替えのない、素晴らしい人生鍛錬への、スタートでした。

強かった3年生が、インターハイ予選、国体予選に惜敗後、古堅主将（19期ふるがた、通称、ガタさん）を中心にした新チームが、結成されました。

古堅さんは、木村さんによく怒られていましたが、我慢強い・実直な人柄は、大好きでした。

その古堅さんは、ロードワークが好きで、日常的な「一本松コース」、過酷な「四條畷神社コース」、「成田山コース」のうち、特に「四條畷コース」には、よく行かされました。

夏期練習のある日、「四條畷コース」に伴走された、当時立教大生の北村文雄さん（16期・世界選手権日本代表）が、「寝高ぐらい、こんなに走る学校は珍しいな。こんな練習してたら、絶対強くなるわな。こんなところにも、寝高の伝統が、自然に受け継がれているんだね」と、古堅主将の持久力育成を、評価されました。

マラソンの後の、冷えたサイダー（北村さんのおごり）に、濃い髭面（ひげづら）のガタさんは、久しく笑顔を見せました。

申し遅れましたが、「四條畷コース」には、当時東京教育大生の大西武三さん（16期・世界選手権日本代表）にも、よく引率していただき、その都度、サイダーをいただきました。

また、大西さんは夏休み期間中、陣頭指揮で指導に当たってくださった上に、飲物等の差し入れもよくしていただき、今から考えると、かなりの出費だったと思います。

誠に、ありがとうございました。

高2の7月下旬、酷暑。

中出先生（3代目顧問）、16期の木野さん・柴田さん、17期の川口さん・辻本さんが練習に来られた時、練習前に撒いた水は、既にカラカラ、正に灼熱の砂状態。

始めの、ダッシュ・ターン練習だけで、頭がボーとしてくる。先輩たちと一緒に、スリークロス・シュート練習を、徹底的に教え込まれる。

木野さん、「スリークロスでは、3人目が大仕事をする。ロングシュートに行く者は、常に、三人目の位置におること。コートサイド一杯に広がり、遅れ気味（かくれ気味）の位置にいて、ボールをパスしたら、一気にダッシュして打ちに行く。これがコツ」と、基本の極意を、教示。

中出先生、「横走りは、実戦的ではない。常に、縦に縦にと、走り込み（切り込み）、ボールを送ること」と、実戦的極意を、教示。延々と続く、スリークロス・シュート練習。

もうみんな、フラフラ。

まだ、終わらんか。

いつ、終わるんやろ。

ちゃんと、できたと思うのに……。

徹底的に、頭と体に、そして、胆肝（きも）に教え込ませる、練習が続いた。

この夏は、毎日と言うほど、こうした練習が続き、13～19期までの、ほとんどの先輩方が、連日、入れ替わり・立ち代り、共に汗を流していただいていた。

カッコよさの邪心は、消滅し、一心に、「修行僧」になっていた。伝統校の強さの極意とは、まさにこれだったのかと、気付いたのは、卒業後のずーっと、後のことでした。

19期・吉田さん話。

1学年上の吉田さんは、一見、俳優の高倉健似の強面（こわもて）の様だが、喋ると、かわいい声でした。

練習中は、とにかく「サボる」（ごめんなさい）のが、うまかった。

本人は「処世術だ」と、言っていたが、シュート練習で打つたびに、ゴールネット裏でしばらく立ち、木陰に飛んだボールは、我一番に追いかけて、なかなか戻らない。

そして何故か、口元が濡れている。

それら一連の動作が、極自然だったので、初めは「サボり」とは分からなかったが、僕の同期の中出君は、既に見抜いていたようで、僕の顔を見ると、笑っていました。

何が、「処世術」ですか。

バレバレでしたよ。（吉田先輩、ごめんなさい。）

学園祭と、ハンド部の話。

高1の秋、寝屋川高校の記念すべき、第1回学園祭が、開催されました。





寝屋川クラブ会報

中でも一番人気は、今は中央小学校になっています、南隣の当時の寝屋川1中体育館で行われた、最終日のエレキバンド演奏でした。

ハンド部キャプテンの木村さんが、ジョン・レノン風のヘアスタイルで現れ、突然、ダイヤモンドヘッドや、パイプラインなどを、テケテケテケテケー！と、演奏し始めたものだから、会場はたちまち、最高潮。

我がハンド部のキャプテン木村さんって、すごいな。

音楽でも、「河内の原に疾風（かぜ）」、おこさはったんです。

今から、約50年前の学園祭ですが、昨日の如く、鮮やかに蘇（よみがえ）ってきます。

さて、高3時の僕達のチーム編成は、寺西主将、中出君、濱崎君（現：竹野君）、土保（つちやす）君、香西君、私・井川と、21期のGK今堀君、内田君らが中心になり、インターハイ予選に臨みました。

西野田工、豊中、富田林と勝ち進み、府下ベスト8まで来たけれど、数年来の宿敵・佐野工（インターハイ4年連続出場）に、3年連続で阻まれました。（女子は、インターハイ和歌山大会出場）

入学時に描いた、全生徒の前での壮行会の、「カッコよさ」、「もてるスター」への夢は、果敢（はか）なくも無残に、消え去ってしまいました。

でも、きっかけはどうあれ、寝屋川高校ハンドボール部で経験した、厳しくも貴重な人生鍛練の青春は、65歳になった今も、若さを維持する源として、生きているように思えます。

ちなみに、私は定年退職後の、今もまだ、嘱託職員として、現役で仕事に励んでいます。

最後に、若い現役の皆さんに、私の先輩・流川宏さん（18期）の口癖だったあの言葉を是非、引き継いでおきたいと思います。

「人間、若いうちに苦しんどかんと、後で後悔するぞ！」

以上、永文になってすみませんが、次の伝言者には、思い出深い、18期流川さんか、2年前の望月先生（4代目顧問）を偲ぶ会で、卒業後初めてお会いした19期竹守さんか、吉田祐紀さんをお願いします。

23期 杉本 明夫

60歳を過ぎた現在、まだ仕事を続けながら、土日祝の休日のみ、東京都東大和市立第3中学校バスケットボールの、外部指導員として、子供たちと一緒に、汗を流しています。

その中学校の部活動指導員を始めて、今年で15年目に入りました。（その前の、小学生の指導も含めると、25～6年経ちます。）

寝屋川高校ハンドボール部、当時を振り返りますと、すぐ思い出すが、「失恋」と「愛のむち」と思われる、練習です。

1年生で入部したその夏、望月先生（4代目顧問）の一言、「全員丸坊主にせよ！、イヤならやめなさい」。

ちょうどその日は、恋心を抱いていた彼女との、初デートの日、突然の集合連絡で、彼女とは約束通り、映画を見たのですが、途中で帰るハメに。

そして、先ほどの一言。

1年生は、かなりの人数が、入部した記憶がありますが、坊主にして残った1年生は、5人。

坊主頭は、初めての体験でした。

恥ずかしくて、彼女とは連絡を取らないまま、甘い恋は終わりました。

今、思い出しても、笑ってしまいますね。

それ以来、ハンドボールに打ち込みましたが、先輩の強烈な指導に、毎日青ざめていました。

大学では、やらないつもりでしたが、結局、ハンドボールをそれから4年間続け、そして現在、種目は違えど、バスケットボールの指導者として、今でも続けてこられたのも、私の原点である、寝屋川高校ハンドボール部のお陰だと思っています。

今から26年前、埼玉県越谷市に住んでいたころ、長女が、地元のポートボールクラブで、活動していました。

バスケットボールの小学生版と、聞いていましたが、コートがハンドボール同様、半円のゴールエリアがあり、その外側からシュートする競技、どことなくハンドボールに似ていることから、指導を要請され、引き受けたのがきっかけです。

その後、市内でもトップクラスの成績を残した娘たち(7人)は、揃って中学校のバスケットボール部に入部。

しかし、3年間、一度も公式試合は勝てないまま、卒業。

ちょうど、次女がポートボールを、始めた頃でした。

ポートボールと、バスケットボールは、違うスポーツであると痛感し、同じ指導するなら、バスケットボールを指導したいと、思い始めました。

越谷市には、小学生のミニバスケットボールチームがなく、同じ思いの、数チームの指導者と、越谷市ミニバスケットボール連盟を立ち上げて活動、今では、市内に男女26チームと膨れ上がり、埼玉県下でも、断トツのチーム数になりました。

負けてばかりだった、長女の卒業した中学校は、今では、関東大会出場も経験した、強豪校になっており、ミニバスケットボール経験者が、越境入学するくらいの、人気の中学校になりました。

次女が、中学1年生の時、現在の東京都東大和市に転居し、バスケットボール部に入部したのがきっかけで、外部指導員(コーチ)として、指導を要請され、現在に至っています。

女子は、なかなか地方予選を、勝ち抜けませんが、男子は、昨年の秋の新人戦、今年の春季大会と、連続で、都大会出場という結果を、出しました。

冒頭、先輩の「愛のむち」と思われる練習と、記しましたが、当時は「強制、やらされている」と、いう思いから、「早く終わりたい」と、ばかり考えて、練習していました。

言われたことを、早くやって、終わりたい。

言われた通り、やって、早く終わりたい。

形ばかり覚えて、ハンドボールが理解できず、応用が、利きませんでした。

これでは、強くなるわけがありません。

インターハイ予選、決勝(敗退)まで行った記憶はありますが、その後、はじり貧状態。

スポーツに限らずですが、「自分でやる」という思いによって、はじめて物事を理解して、身につく。

つまり、応用が利くと、思っています。

今の、私の指導の原点に、しています。

子供たちの、心の持ち方、考える力を伸ばし、自分で後悔しない選択ができるよう、小さな決断をする機会を、たくさん作ってあげたいと、考えています。

寝屋川高校のハンドボールが、きっかけで、今があります。

体が動く間は、続けていこうと、思っています。

父親も他界し、寝屋川には、なかなか行ける機会が、ありません。

毎回、この会報を楽しみに、読ませていただいております。

現役の皆さん、OB・OGの皆さんの、今後のご活躍を祈念して、締めくくらせていただきます。

今回は、21期の南久晴さん、このリレー伝言板がきっかけで、当時を思い出していたら、大学で一緒にプレーをしていた、南さんの顔が浮かびました。

それ以来、お会いしておりませんが、懐かしく思い、指名させていただきました。

よろしく、お願いします。



32期 岩本 年成

現在、私は名古屋で、街の電気店を営んでおりまして、ハンドボールとは、随分長い間、はなれております。



寝屋川クラブ会報

スポーツするといっても、体重が現役時代よりも、10Kgぐらい多くなってしまい、ダイエットのために、最近始めたジョギングと、なかなか上手にならない、ゴルフぐらいです。

そんなところに、本当に突然に、OGの甫田さん（旧姓、林さん、29期）から、電話がかかってきて、何だかわからないうちに、リレー伝言板を、書くことになってしまいました。

ほかのOB・OGの方々の伝言板は、大変興味深く、読ませていただいておりますが、自分が書くようになるとは、全く考えていませんでしたので、何を書いたらいいのか？、どうしよう？と、困っていました。

やはり、色々な思い出のなかで、一番強烈に記憶に残っていることと、ハンドボールに入部したきっかけについて、書いてみたいと思います。

まず、ハンドボール部に入部したきっかけですが、高校に入学して、何か部活には、入りたかったのですが、野球、サッカー、バスケットボール、水泳、バレーボール、陸上と色々ありますが、自分はそのような部活経験もないし、色々迷っていました。

そんな時、同じ中学の1学年上の田中裕一さんに、「一度見学しに、来いよ！」と、声をかけていただき、見学だけと思って行ったのが、（運のつき？、ではなくて）幸運にも、ハンドボールとの出会いとなりました。

一番強烈に、記憶に残っていることは、最初1年生は私だけでしたが、5月になってくると、7・8人と仲間が増えて、とても嬉しかったのを、覚えています。

4月に入部してからは、アツという間にインターハイ予選も終り、新チームとなり、秋の新人戦（確か、10月だったと思います）が、はじまりました。

順当に勝ち進み、ベスト16ぐらいの、試合であったと思います。

それまでの試合のことは、全く覚えてないのですが、この試合だけは、はっきりと憶えています。

対戦相手は、私立の強豪校の、初芝高校でした。

チョット、強面の選手がそろっていて、いかにも強そうでした。

前半、何となく弱気な感じで、試合がすすみ、相手も、こちらを飲んでかかっているような、余裕の試合運びでした。

スコアは、2:6でした。

ハーフタイムになり、グラウンドの隅でみんなが集まり、その時、北岡先生（5代目顧問）、それまでには見たことがないような、怖い顔をされていて、大変厳しい言葉で、2年生の先輩方に、「お前たちは、最初から負けると思って、戦っているだろう！」と、指摘され、喝を入れられたのでした。

私は、その試合に出場していましたが、自分自身にも、少しはそんな気持ちがあり、凄く、恥ずかしくなりました。

先生は、スコアとか、プレイのことではなく、僕たちの消極的というか、その間違った考え、気持ちに対して、怒っておられたんだと思いました。

先生の檄のおかげで、全員前半とは、違うチームのようになり、後半だけでは、同点であったと思います。

その試合以降、2年生、3年生となり、たくさん試合をしてきましたが、どんなに強い相手でも、勝つんだという、強い気持ちを持って戦っていたと思います。

同志社大学に進学してからも、北岡先生のお力添えもあり、ハンドボール部に入部できたのですが、他は皆、スポーツ推薦で、入部した選手ばかりでしたけれど、あの時、教えていただいた、絶対に負けないという気持ちで、がんばることができました。

現在は、とてもハンドボールができる体力はないですが、気持だけは、変わらずに持ち続けて、日々過ごしています。

沢山の友人と出会え、色々な経験ができ、就職する時も、部活動をしていたことが、有利になったり、考えてみると、高校でハンドボールに出会えたことは、今までの中で、神様がくれた、一番のプレゼントだと、今回、この伝言板を書きながら、そんな風に思いました。

それでは、次のリレー伝言板の指名者ですが、ご無沙汰しています同期の山本さんか、西森さんに、気さくな文章、お願いいたします。

50期 上垣 利昭

部室って、よかったですよね。



今年で、35歳を迎えます。

高校を卒業して、もう一度、人生を1から数え直すと、17歳。

また、脂の乗った、楽しいクラブ活動ができるほど、時間がたったのだなあ、この原稿の構想を練りながら、しみじみと感じました。

現在は、管理栄養士として、仕事をする傍ら、2人の子どもの父として、子育てに奮闘しています。

保育園の送り迎えに乗る自転車が、一番の運動ですから、当然、ハンドボールほどの、激しいスポーツは、できません。

でも、今年は一念発起で、大阪マラソンに挑戦しようと、エントリーしました。

この会報が、皆さんの手に届くときには、参加の抽選結果が、出ているでしょうか。

当然、走りたい気持ちはありますが、もし当たったら、厳しい練習が始まるんだなど、悲痛な思いに駆られると、「当たれ」、「やっぱり当たるな…」と、不安定な気持ちに、揺られます。（笑）

私がハンド部に所属していた当時は、タレントの「渡辺 満里奈」が、人気の時代でした。

京阪電車の広告には、「おけいはん」や「ひらば一兄さん」は、いません。

公式キャラクターは、渡辺 満里奈で、駅のほとんどが、彼女のポスターで、埋め尽くされていました。

もちろん、多くの男子高校生にも、憧れの存在で、その過熱ぶりに、駅の特大ポスターが、ちらほら盗難される中、誰が持ってきたのか、突然ハンド部の部室の壁にも、大胆にも貼られていました。

今となっては時効で、笑い話で済むと思っておりますが、当時、見つかったら、相当お叱りを受けていたと、思います。

ただ、そんなことには関係なく、あの狭苦しいクラブボックスの中では、「ハンド部の部室には、満里奈が貼ってるぞ!」、「羨ましい!」と、ラグビー部や野球部などから、見物客まで来た、人気部室になっていました。

角部屋で、居心地もよかったですけど、今も同じように、あるのでしょうか？

高校生活の充実ぶりが、どこにあるかを探してみたら、結構部室の存在が、大きかったようです。

あの薄暗く、狭い、埃にまみれた、汚い空間でしたが、最上級生になったら使える、特別な聖地。

きつい練習を終えて、仲間とゆっくり談笑したり、ふざけあったりできる、和やかな空間は、あまり社会人になって、与えられるものではないですよ。

汗臭いジャージを投げて、はしゃぐ奴。

それを嫌がって、叱りつける、キレイ好きな奴。

ただただ、それを見て、ケラケラ笑う僕。

そんなくだらなくて、楽しすぎる日常が、あの部室で、毎日繰り返されていました。

東ブロック予選で、毎回敗退する学年でしたが、仲の良さなら、今でも全国クラス級を、自負します。

それは、練習が楽しかったし、先輩も後輩も大好きだったけど、それだけじゃなく、あの部室が、高校のクラブ活動を充実させる、一役を担っていた面もあったと思います。

皆さんの時代の部室は、どうでしたか？



それでは、次の伝言板の指名者ですが、ご無沙汰しています、49期吉村先輩か、51期稲葉さんに、面白い記事、よろしく。



64期 北村 果奈

初めまして、64期の「チャッピー」こと、北村 果奈です・私の高校生活の青春の日々は、8割がハンドボールで占められていたと言っても、過言ではないくらい、毎日ハンドボールコートにいた気がします。

その様な日々は、今となっては、何にも代えられない、かけがえのない時間だったのだなあと、今になって、しみじみと感じています。

練習では、ミスを連発して、赤星先生に怒られて、毎年皮膚がんになるんじゃないかって程、真っ黒に焼けて、試合ではフォーメーションが、うまく決まって嬉しかったり、シュートが決まって嬉しかったり、人生でこんなにも怒られることはないと思うし、こんなにも喜びを、友人と分かち合うことは、二度とないような、気がします。

今思うと、ほんとに幸せなことだったんだなあって。

でも、こんなつらい練習に耐えて、3年間しっかり部活を続けて行けたのも、喜びを最大限に分かち合えたのも、「仲間」がいたからだ、断言できます。

練習と練習の間のふざけ合い、更衣室でのふざけ合い、電車でも周りを気にせずふざけ合い。

今となっては、ふざけてばか笑いしか、なかったですが、その時間が何よりも楽しくて、何よりも息抜きになっていたと、思います。

今でも「64期の女ハンは、ほんま仲がいいなあ〜」と、他のクラブの子たちに言われるくらい、仲がよく、年に何回か、全員で集まります。

全員が集まった時は、時間が戻ったみたいに、絶え間なくしゃべり、絶え間なく笑って、時に真面目な話しもします。

こうやって、皆なで集まるとなると、どんな予定よりも優先して、皆なに会いたくなります。

たぶん社会人になって、次の日が早朝会議だとしても、夜遅くまで、しゃべり明かしていると思います。

きっと、それぞれ家庭ができたなら、ママ会なんかも、開いているんじゃないかな……。

そんなことを考えるだけで、今から、楽しみです。(笑)

まあ、とりあえず、近いうちに、また集まりましょう！！

なんだか、まとまりのない文章になってしまいましたが、次は、見るたびに、お腹周りのお肉が増えていく、不思議な体の持ち主の、64期男子ハンドボール部部長の湯川君に、お願いしたいと思います。

64期 嶋戸 美音

64期の女子部キャプテンをしていました、嶋戸美音です。

私は、次のキャプテンはお前だと、先生に言われる前から、正直自分ではないかと、うすうす感じてはいました。

いざ、それが現実になって、最初は不安もありましたが、実際やってみて、大変なことは、ほとんどありませんでした。

それは、64期のみんなの、おかげです。

副キャプテンの2人は、特に、私を支えてくれました。

しいな(穂谷美緒)は、チームに、いつも喝を入れてくれました。時にはキツイことも、私の代わりに、言ってくれました。

りな(樋渡梨奈)は、しいなとは、また違うタイプで、雰囲気悪い時など、率先して声をかけて、チームを明るくしてくれました。

また、私は方向音痴で、電車や道が苦手なので、遠征や大会のときは、いつも2人に全部任せて、連れて行ってもらっていました。

マネージャーのやっちゃん(土本靖枝)は、本当によく気が付く子で、いつもプレーヤーのことを、よく見てくれていました。

また、私はよく、やっちゃんに話を聞いてもらっていました。

私が一番、チームのことについて話した相手は、実はやっちゃんではないかと、思うくらいです。

コートの外から見ている、やっちゃんの言葉から、いろんなことに、気がつくことができました。

私たち64期は、私を含め14人いるので、試合に出られないメンバーも、たくさんいました。

ある試合で、私は自分の思うようにプレーできず、イライラしていました。

そんな時、タイムアウトでベンチにいくと、ある子に「今日パスのタイミング、いつもより一歩遅いで」と、言われました。

ほかの子からも、「いつもより、ディフェンスと、近くない？」などと、言われました。

私はそのとき、ほんとうにこのチームって、試合に出てる出でない関係なく、全員で戦ってるんだなと、思いました。

私たちは、思ったことは遠慮せず、よくぶつけあいました。

試合中は、ゆっくり話してられないので、端的に伝えようと、ヒドイことばも、とびかったものです。

でも、それも、信頼関係の上に、成り立っていました。

私は、64期全員に、ほんとうに感謝しています。

名前をあげた3人以外について、書きたいくらいですが、あと10人もいるので、やめておきます。

また、後になってしまいましたが、赤星先生(6代目顧問)、江口先生には、ほんとうにお世話になりました。

江口先生は、体調やケガなどのケアに、本当に気を使ってくださいました。

うまくいかないときは、いつも声をかけてくださり、精神的にも、すごく支えてました。

赤星先生は、普段から、私のことを信頼してくださっているのが、すごく伝わってきました。

練習でも、試合でも、私がどうしたいか、どう思うかなど、いつも、聞いてくださいました。

私も、その信頼にこたえたいと、いつも思っていました。

寝屋川高校の、ハンドボール部に入って、ほんとうに価値のある、高校生活を送ることができました。

目標だった、近畿大会にいけず、他にも、悔しい思いもたくさんしましたが、その中で大事なことを、学びました。

後輩たちも、卒業後、私と同じ気持ちになってくれたら、嬉しいです。

次は、65期の山崎しほさんに、お願いしたいと思います。

- ①「会員リレー伝言板」では、会員の皆さんを、大体10年単位8グループに分けて、皆様にハンドボールへのかかわり、近況や、現役の時の思い出等を、自由に語っていただき、同期、先輩、そして後輩へリレー形式でつないでもらって、会員の皆さんに紹介をし、親睦の輪を広げていきたいと思っています。
- ②本文で、今回の寄稿者の方には、次回の寄稿者の指名を行ってもらっています。次回指名された方には、次回会報発行時に、OB・OG会役員より、原稿のお願い・要領等の連絡をさせていただきますので、その節には、ご協力の程、よろしくをお願いします。
- ③OB・OG会会員の皆様、今回掲載されました内容について、感想、コメント、あなたの熱いメッセージ等を、事務局・20期寺西まで、[メール kkteranishi@yahoo.co.jp](mailto:kkteranishi@yahoo.co.jp)か、同封の返信用封筒で、お寄せください。

